

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 栃木県宇都宮市立一条中学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 320-0842  
栃木県宇都宮市京町9-25

E-mail ichi-jo-j@ueis.ed.jp  
Website http://www.ueis.ed.jp/school/iti-jo-j

幼児児童生徒数 男子 234名 女子 234名 合計 468名  
幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人間の育成」を学校教育目標として、ESDを生徒の自主性や主体性、協同性を育むためのさらなる充実の機会と捉え、ESDの実践を通して、歴史や伝統、地域についての関心を高め、社会貢献の精神を育み、意欲的に学びを追求する力を高めることを目標とした。具体的には防災、平和教育、文化遺産への関心を柱に、①防災訓練に係わる活動、②平和教育に係わる活動、③ボランティア(文化遺産)に係わる活動、人権に係わる活動を行った。

### ① 防災教育に係わる活動

本校はESD教育の柱の一つとして、地域ぐるみの防災訓練に力を入れており、防災や生命尊重の意識を高める活動を、教育課程に位置づけて実践している。

主な活動として、地震や火災、竜巻などの自然災害を想定した避難訓練を実施したり、市教育委員会主催の防災と青少年健全育成についての講演会を催したり、9月に防災訓練を実施したりした。避難訓練では、事前指導として、自然災害に関するDVDを視聴した。災害に関する基本的な知識を確認する時間を設けることで訓練への意識を高めている。防災訓練では、「地域ぐるみの防災訓練」として、宇都宮市の消防署や消防団、JRC栃木支部、地域の方々に協力をいただき、様々な防災、救急活動を体験する活動に取り組んだ。具体的な活動内容は、消化器の使用やバケツリレーによる消火体験、煙道体験、避難袋体験、AED講習などである。また、各教科や委員会活動でも防災に対する意識を高める工夫を取り入れている。家庭科の授業では、防災バッグづくりを行ったり、家庭の防災用品の有無や管理について生徒自身に主体的に考えさせたりする授業を展開している。委員会活動では、BFC（少年消防クラブ）の委員会を設け、生徒に避難訓練や防災訓練活動の司会進行を担当させる機会を積極的に用意した。

## ② 平和教育に係わる学習

宇都宮市は、昭和20年7月に本土空襲を受け、大きな被害を被った。本校は市内の中心に位置しており、空襲の被害にあった地域に立地している。戦争の惨禍をくり返さないためにも、生徒たちに戦争の悲惨さを知ってもらい、二度と戦争を起こさないという強い自覚をもたせるために平和学習を取り入れている。

市役所の職員を招き、平和に関する講話を実施した。生徒は空襲の実情を、数字や当時の市街地の地図、写真を通して学ぶことができた。被害の様子だけでなく、戦後復興の様子を知ることでもでき、平和を希求する人々の切実な願いや、困難から立ち上がる人々の姿を知ることによって現在の平和の尊さ、築き上げてきた平和の重みを感じることができていた。

## ③ ボランティア（文化遺産）に係わる学習

本校の学区には宇都宮城主戸田家の墓所がある。毎年夏期休業期間中に、参加者を募り、地域の貴重な歴史遺産である墓所の清掃活動を行っている。本校の生徒はボランティア活動に積極的であり、参加意欲が高い。近くには宇都宮城跡地の城址公園があり、多くの生徒が日常的に郷土の歴史に親しむ環境に恵まれている。この清掃活動を学校の教育活動の実践として位置づけることで、生まれ育った地域についての関心が高まり、郷土を愛する心の育成が期待できると考えられる。

## ④ 人権意識に係わる学習（一条地域学校園あいさつ運動）

宇都宮市では小学校と中学校が連携して様々な教育活動に取り組む、地域学校園を組織している。本学校園では、児童生徒が地域社会の一員であることの自覚をもち、活動を通して他者と積極的に関わろうとする人権意識を高めることをねらいとして、あいさつ運動に定期的に取り組んでいる。生徒会執行部や学年委員会、生活委員会、各部活動の部長が中心となり、原則、毎月はじめに活動を行っている。小学校とも連携し、今年度は年に3回、担当生徒が出身小学校に出向いて小学生に対してもあいさつを呼びかけた。教職員だけではなく、保護者や地域の方も活動の主旨に賛同していただき、地域全体で協力体制を築いて、活動を推進している。

① の写真 (キャプション)



① の写真 (キャプション)



① の写真 (キャプション)



② の写真 (キャプション)



③ の写真 (キャプション)



④ の写真 (キャプション)



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」(日本赤十字社)
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、市教育委員会や市の消防署や消防団、JRC 栃木支部、地域の方々と連携、協力して教育活動を展開している。特に、防災訓練や平和教育講演会、あいさつ運動やボランティア活動は年間の教育課程に位置付けており、中長期的視野に立ち、継続して活動を展開している。活動に対する計画やねらいを明確にし、立案、展開している。特に、事前指導、事後指導を充実させ、生徒の変容をみとるとともに、次年度に改善点をいかすことで教育的効果を高められるように工夫している。また、全教職員、全校生徒を対象とする活動により、発達段階に応じたきめ細やかな指導が展開できると考えている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校務分掌に担当教職員を位置づけ、年間の教育課程に実施時期を明記することによって、計画的に教育活動を展開している。市教育委員会や各種外部団体と連携・協力を図ることで、生徒の発達段階や実態に応じたきめ細やかな活動が展開できるように工夫している。事前指導や事後指導の方法について、教職員全体が共有できるような機会を活動実施前に設けている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

事後評価の一環として、生徒や教職員に対してアンケートやワークシートを活用した振り返りを実施している。継続的に教育活動を展開していることによって、生徒が主体的に活動に取り組む機会が増加していることが挙げられる。一方、課題としては、活動内容の適切さや実施時期など活動計画の改善について挙げられている。例えば、今年度実施した避難袋体験では、より安全な体験活動の実施について次年度への反省点が話し合われた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校通信による保護者、生徒への情報の発信や地域と連携した地域協議会通信による地域の人々への情報の提供、新聞社や放送局の取材などを通じたメディアによる情報の発信などにより、本校の教育活動の様子について周知する工夫を行った。その結果、地域住民や保護者による協力・支援が高まり、生徒たちが充実感をもって活動に取り組む環境を整えることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

本校の教育活動を充実したものにするために、次の3つの点において学校以外の団体と協働・連携・交流を行っている。①あいさつ運動やボランティア活動の実施において、一条地域学校園内の3つの各コミュニティセンター(西地区、西原地区、宮の原地区)へ協力依頼。②防災訓練時に、上記3つの自治会並びに防災会等との協働・交流。③平和教育に関する講演会の開催を宇都宮市文化課へ依頼。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今年度の本校の取り組みとして、他の国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成を行うことは十分にできなかったが、他のユネスコスクールの活動実績などの情報を入手し、類似した取り組みを行っている学校の活動内容を模範とすることで、将来的な交流・ネットワーク形成に向けて尽力した。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

学校が地域社会に根差した教育活動を展開することができることによって、生徒が身近な地域についての関心を高めることができる。また、小学校や地域、保護者との連携を図ることによって、異年齢集団との交流の機会が増加し、主体的、協働的に活動に取り組もうとする意欲の向上につながるることができる。継続的に活動を展開していることにより、あいさつ運動においては、自主的にボランティアとして活動に参加する生徒が増加するなどの変容が見られた。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

平成 29 年度同様に、防災教育に係わる活動、平和教育に係わる活動、ボランティア活動（文化遺産）に係わる活動、人権意識に係わる活動を柱として教育課程に位置付けている。その他の活動として、奉仕活動や行政や小学校、福祉移設等のボランティア活動を毎年展開しており、次年度も継続して取り組む予定である。奉仕活動は地域自治体の協力も得ながら活動しているため、校外組織との連携の一環として推進していく予定である。これらの活動を通して、本校の教育目標出る「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人間の育成」を目指していきたいと考えている。